

グアテマラ内政・外交（2009年7月）

平成21年8月
在グアテマラ日本国大使館

1. 概要

内政面では、ガンダラ内務大臣(2009年1月就任)が辞任した(8日)ほか、コロン大統領が自身が出演するラジオ番組(「大統領執務室(Despacho Presidencial)」)を開始した(22日)。首都を含む各地において農民の待遇改善を訴える農民組織による抗議行進(24日)や、セメント工場建設地域住民が反対を訴える抗議行進(14日)が展開された。治安面では、サカパ県、エル・プログレッソ県等における麻薬密輸活動の元締めとされるロレンサーノ・ファミリーに対する米国麻薬取締局(DEA)、国家文民警察(PNC)、軍等による共同の捜査が失敗し関係者が逃亡した(21日)。

外交面では、コロン大統領がコスタリカで開催された第11回トウストラ対話と協調メカニズム首脳会合に出席した(29日)ほか、エルサルバドルを訪問した(22日及び28日)。ホンジュラス情勢の関係では、コロン大統領が、メヒア副大統領(セラヤ政権)等が当国滞在中であることを発表した(4日)ほか、セラヤ大統領が滞在中のニカラグアから当国を訪問した(14日)。

2. 内政

(1) ガンダラ内務大臣の辞任

8日、ガンダラ内務大臣(2009年1月就任)は一身上の都合を理由に辞表を提出した。9日、ガンダラ内務大臣の辞表が受理され、同日、ラウル・ベラスケス元内務省次官が新内務大臣として就任した(2008年1月に発足したコロン現政権下において、ベラスケス内務大臣は4人目の内務大臣となった)。就任したベラスケス新内務大臣は、今後内務省の現状評価をまとめ治安政策で変更の必要がある分野を判断する予定であり、同時に、国家文民警察(PNC)幹部の評価も行い適宜幹部の交代を行う予定である旨表明した。

(2) コロン大統領によるラジオ番組(「大統領執務室」)の開始

22日、コロン大統領は、自らが出演するラジオ番組「大統領執務室(Despacho Presidencial)」を開始した。同番組は、毎週水曜日の午前7時から8時に国営放送 TGW 局により放送される。初回となった22日の同番組でコロン大統領は、政府関係者2名からインタビューを受けつつ視聴者に対し説明を行った。今後、同番組では、治安、経済、憲法改正、大統領夫人、社会連帯審議会、現政権の成果等がテーマとして扱われる。

(3) 世論調査結果の発表

14日付プレンサ・リブレ紙は、7月4日から10日に実施したコロン政権成立後一年半が経過した時点での世論調査結果を掲載した。

(イ)コロン政権一年半の政策運営については、回答者の46.2%(前回調査結果44.8%)が政権発足後一年半の間のコロン政権の政策運営を評価するとして一方で、53.8%(同54.4%)が評価しないとした。

(ロ)地域別では、都市部では回答者の59%がコロン政権の政策運営を評価しないとしたが、農村部では52.6%が評価すると回答した。

(ハ)分野別評価では、回答者の54%が国内の主要な問題として治安問題を挙げ、深刻な治安情勢が反映された。回答者の67.4%は犯罪が増加していると回答し、特に、都市部回答者の71.6%は過去一年半の間に治安が悪化したと回答した。一方で改善が評価されたのは、保健部門及び教育部門であった。

(4)国内におけるデモ行進等の展開

(イ)24日、農民組織(Comité Desarrollo Campesino(CODECA)及び Frente Nacional de Lucha(FNL))が、農業労働者の待遇改善、農業労働者1人当たりQ.3,000の補助金付与、肥料及び土地へのアクセス改善等を要求し、メキシコ国境地域から太平洋岸地域までの国内各地の交通の要衝計12箇所で道路封鎖を行った。レタルレウ県エル・サルコにおける抗議活動では治安当局との衝突により、農民7名及び国家文民警察(PNC)暴動鎮圧部隊12名が負傷した。グアテマラ市においても農民グループは国会へ向け行進を行い、アレッホス国会議長に対しQ.3,000百万の補助金の承認等を要求する文書を提出した。

(ロ)14日、グアテマラ県サン・フアン・サカテペケス市の12のコミュニティーの住民が、現地におけるセメント生産の中止を訴え、同地から首都まで約10時間かけて抗議を訴える行進を行った。

(5)ベリーズ国境問題国民投票に関する委員会承認

23日、当国国会の法制・憲法委員会は、ベリーズとの国境問題について国際司法裁判所(ICJ)への付託の是非を問う国民投票を実施することについて全会一致で賛成するとの決定を下した。今後、国会の外交委員会での審議を経た後、国会における審議が予定されている。

(6)チャベス・ベネズエラ大統領等による国内クーデター計画に関する発言

(イ)10日、ベネズエラのチャベス大統領はカラカスにおいて、「コロン大統領に対するクーデター計画が進展しつつあると思われる。グアテマラの軍人がホンジュラスのパターンに従おうとしている。危険を排除するためにもミチェレッティ政権に厳しい制裁を加えることが必要である」、「ニカラグ、ボリビア、ベネズエラでも同様のクーデター計画がある」等の発言を行った。同日、ボリビアのモラーレス大統領もラ・パスにおいて、国内に紛争を生じさせようとしているとしてグアテマラのオリガルキーを批判した。

(ロ)これら発言についてドハーティー当国工業会議所会頭は、「グアテマラ財界は、法治国家体制及び民主主義への支持を十分過ぎる程に示してきている(muestras mas que suficientes)」とし、「両名に対しては、他国の問題に首を突っ込むのを止めて、自国の国内問題に対処するよう要請したい」と述べた。

(7)新型インフルエンザ(H1N1)問題

(イ)25日、セレン保健大臣は、20日からの1週間の間に新型インフルエンザ(H1N1)による死者が計7名発生した旨発表した。これにより当国における新型インフルエンザ(H1N1)による死者は合計9名となった。新たに死亡した7名の内2名はHIV/エイズ感染者であり、2名は新型インフルエンザ(H1N1)感染後6~7日後に病院で診察を受けその後24時間以内に死亡した。残る3名については私立病院で死亡しており詳細は把握

されていない。

(ロ)30日、セreso保健大臣は同日までの当国における新型インフルエンザ(H1N1)感染確認者数は計528名、死者は計10名となった旨発表した。(なお、6月25日までの感染確認者数は計264名(死亡者は1名)であった。)

3. 治安情勢関連等

(1)ロレンサーナ・ファミリー家宅搜索の失敗

(イ)21日、サカパ県ウイテ市レフォルマ村において、米国麻薬取締局(DEA)、国家文民警察(PNC)、国軍及び検察庁が共同で、ロレンサーナ・ファミリーが所有する5軒の住居の家宅搜索を行ったが、麻薬密輸容疑が掛けられている同ファミリー関係者は既に逃亡した後であった。

(ロ)ベラスケス検事総長によると、ロレンサーナ・ファミリーの容疑者5名について米国政府から逮捕及び引き渡しの要求が出されていた。同日の家宅搜索は、メキシコ、ベリーズ及びグアテマラで活動を行うゴルフ・カルテルによる麻薬密輸活動の撲滅を目的とした「同時作戦(Operación Coincidente)」の一環として行われた。ロレンサーナ・ファミリーは、サカパ県、エル・プログレッソ県及びチキムラ県における麻薬密輸活動を管理していると見られる。検察庁及びマクファーランド当地米国大使は家宅搜索の失敗について情報漏洩による結果であった可能性を指摘した。

(2)エスキントラ県における大量のコカイン押収

27日、太平洋岸のエスキントラ県において、国家文民警察(PNC)が、炭酸飲料輸送用トラックに隠されていたコカイン759キロを押収した。押収されたコカインは純度100%で76百万ケツアル(約9.2百万ドル)相当と見られる。なお、逮捕者はなかった。

4. 外交

(1)ホンジュラス情勢関連

(イ)1日、クリスティアーニ当国経済省次官は、中米3国(グアテマラ、エルサルバドル及びニカラグア)による対ホンジュラス措置としての陸上貿易の閉鎖措置を、同日深夜に解除した旨発表した。

(ロ)4日、コロン大統領は、「6月29日からメヒア副大統領とその家族(夫人及び息子)がグアテマラに滞在中であり、その来訪を歓迎する。彼らはエルサルバドルから入国した。」旨発言すると共に、ホンジュラスの国内問題について干渉する意図はなく、あくまでも人道的支援として行っているものであると説明した。

(ハ)14日セラヤ大統領は滞在中のニカラグアからグアテマラ・シティーの空軍基地に到着しエスパーダ副大統領及びロダス外相の迎えを受けた。到着したセラヤ大統領は、空港から大統領官邸へ向かいコロン大統領との会合を行った。同日午後行われた両国大統領記者会見でコロン大統領は、「グアテマラ及び中米の立場は、セラヤ大統領がホンジュラスで早期に復権し、同国において民主的制度が回復することを望む。我々はいかなるクーデターの兆しも拒絶する。」と発言した。

(2)コロン大統領の第11回トウストラ対話と協調メカニズム首脳会合出席

29日、コロン大統領は、コスタリカのグアナカステ県で開催された第11回トウストラ対話と協調メカニズム首脳会合に、コスタリカ、エルサルバドル、パナマ、コロンビア、メキシコ各国大統領、ドミニカ(共)副大統領、ベリーズ第一副首相、メヒーア・ホンジュラス(セラヤ政権)副大統領と共に参加した。同会合終了後、各国首脳は、「民主主義と人権擁護の観点からホンジュラスでのクーデターの発生を非難する」等を内容とするグアナカステ宣言に署名した。

(3)コロン大統領のエルサルバドル訪問

(イ)22日、コロン大統領がエルサルバドルを訪問しフネス同国大統領と短時間の会談を行った。コロン大統領によると、両国大統領の会談は極めて短時間のものではあった。24日、アルタ・ベラパス県において現地住民との集会に参加したコロン大統領は、「フネス大統領とは、主にホンジュラス情勢の中米地域統合への影響について話し合った」、「両国共にホンジュラスと国境を接しているため、複雑な様相を呈しているホンジュラス情勢について懸念している」等述べた

(ロ)28日、コロン大統領がエルサルバドルを訪問し、フネス同国大統領と共にエルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス三ヶ国の経済界関係者と会合した。コロン大統領のエルサルバドル訪問に関し当国経団連(CACIF)は、「フネス大統領及びコロン大統領は、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス企業関係者とサンサルバドルの大統領官邸で会合し、企業関係者側は両大統領に対し、各国の関連法令及び地域レベルでの貿易協定を尊重し中米地域において国境封鎖を行わないよう呼びかけた」、「エルサルバドル及びグアテマラの両国大統領は、中米地域の貿易及び自由な移動に影響を与える措置を採らないことを約束した。」等という内容のコミュニケを発出した。

(4)ボリビア外相の当国訪問

9日、ボリビアのダビ・チョケワンカ外相が当国を公式訪問し、ランセリオ文化スポーツ大臣、ブランコ大統領府和平庁長官、デル・バジェ大統領府人権弁務官、ノーベル平和賞受賞者リゴベルタ・メンチュウ女史等と会談した。

(5)モラ米国防次官補の当国訪問

17日、中米諸国歴訪中のモラ米国防次官補が等国を訪問し、ロダス外相、ヒメネス国家治安審議会議長官等との会合を行い、治安分野等における情報及び意見交換を行った。